

タキストロン施工方法

プールサイド用

プラスケアMJ



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下(気温・下地)にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと



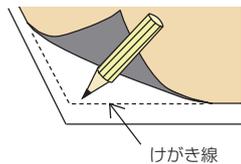
- 注意**
- 水中には施工できません。
 - 伸縮目地上に施工すると伸縮目地部で膨れや亀裂が生じることがありますので、目地手前で床材を仕上げ目地を露出させてください。
 - 階段の最上段はプラスケア専用のコネクステップをご使用ください。
 - 継目止水工法には使用できません。
 - エポシールで継目処理をする場合についてはお問い合わせください。

1. 下地・使用環境の確認

- 下地の清掃を行い、砂・塵埃などを除去してください。
- 下地の表面が平滑で十分な強度があること、塗料や油分などの汚れが残っていないことを確認してください。
- 下地に湿気がある場合は十分に乾燥するまで養生してください。(必要に応じて下地の水分率を確認してください。)
- 施工開始から養生終了までの間に5℃以下(気温・下地)になる場合や、急激な温度変化や水濡れがある場合は施工できません。

2. 割り付け

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。
- 端部は端部処理材の仕上げ代として隙間を空けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などで付けてください。

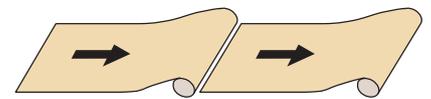
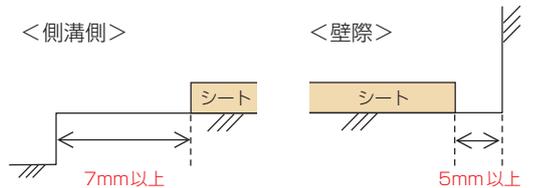


端部処理材の仕上げ代

	側溝側	壁際
プラスケアMJ (厚さ5.0mm)	7mm 以上	5mm 以上

3. 仮敷き

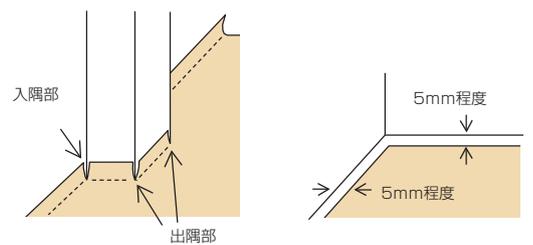
- 張り付け基準線に沿って、仮敷きを行ってください。
 - シートには方向性があります。同一方向になるように施工してください。
 - 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。
 - 継目に隙間が空かないように仕上げを行ってください。
- ⚠ 隙間があると 10. 継目処理 の際、溝切が難しくなります。



4. 壁際の裁断

- 壁際は5mm程度の隙間が空くように裁断してください。
- 下地に防水層がある場合は、カッターナイフ等で傷をつけないように注意してください。

- ⚠ プラスケアMJはオープンタイム後の作業時間が短いため、できるだけ接着剤塗布前に裁断を完了させてください。



5. 接着剤の塗布準備

- 下地に接着剤を塗布するため、タキストロンの半分(幅方向)をずれないように折り返してください。

- ⚠ 幅方向に折り返すことで、張り付け時にエア抜がしやすくなります。
- ⚠ シート裏面の発泡層が破壊されやすいため、圧着後にシートを剥がしたり、シートを強く折り曲げないようにご注意ください。

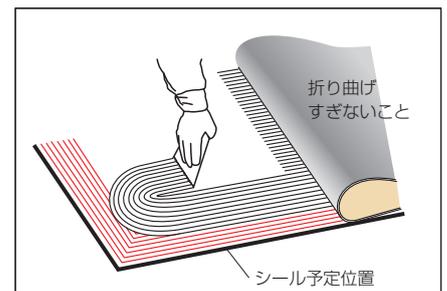
6. 接着剤の塗布

- エポキシ系接着剤の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで、別容器で十分に攪拌してください。(下地上で混合すると混合不良となり後日のフクレ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。

標準塗布量

モルタル下地:	300~400g/m ²
非吸水性下地:	250~350g/m ²

- クシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。
 - シート端部の接着剤のクシ目は端部処理と同じ方向にしてください。(参照:右図赤色部分)
- ⚠ 端部処理材の膨れ発生を抑制します。



試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

7. オープンタイム

- タキボンド#607を使用する場合は、接着剤塗布後ただちに張り付けを行ってください。
- オープンタイムを取りすぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。
- 5℃以下(気温・下地)では使用しないでください。(硬化反応が進みません。)

⚠ 指触チェックをこまめに行い、
張り付け作業時間内に
早めに張り付けてください。

⚠ オープンタイムの目安 (20℃)
気温や通風状態により異なりますので指触チェックしてください



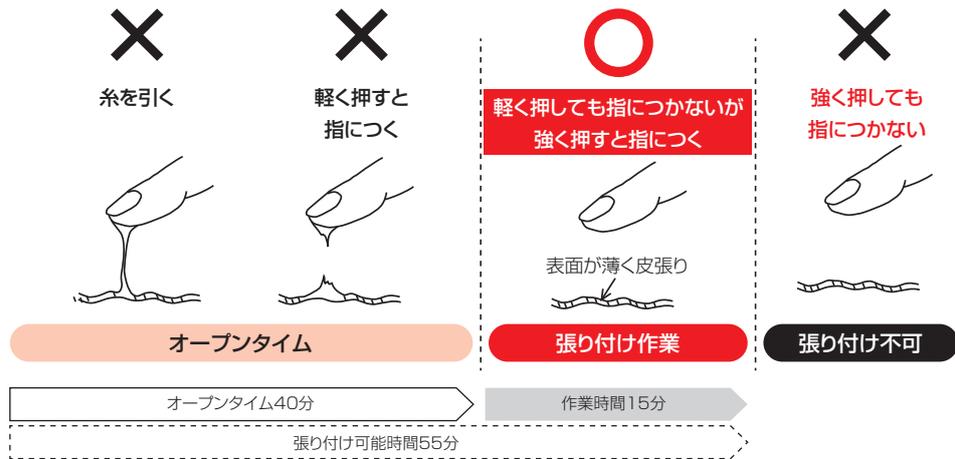
指触チェック動画

接着剤	プラスケア MJ	
	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#601	40~50分	50~60分
タキボンド#607	0~5分	5~15分
タキボンド#701	30~40分	50~70分

⚠ タキストロン プラスケア MJ 指触チェック図

タキボンド #601

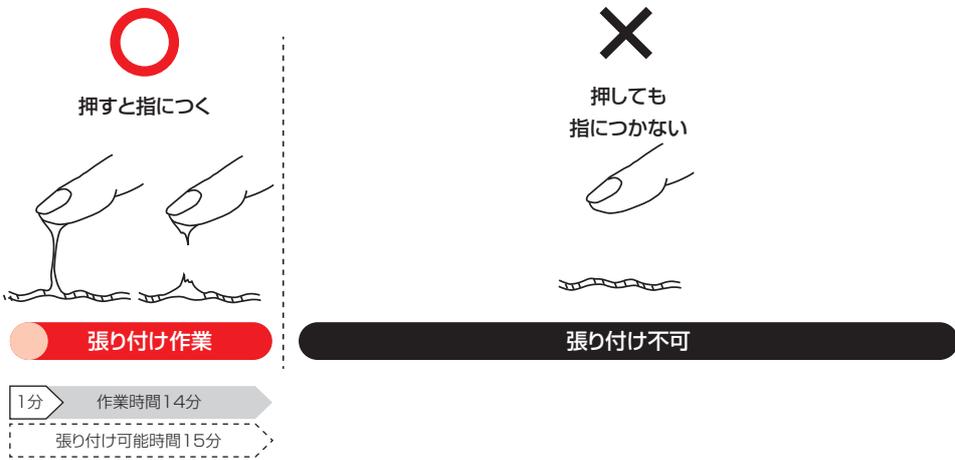
<例>
オープンタイム40分
貼り付け可能時間55分
の場合、作業時間は15分となる



タキボンド #607

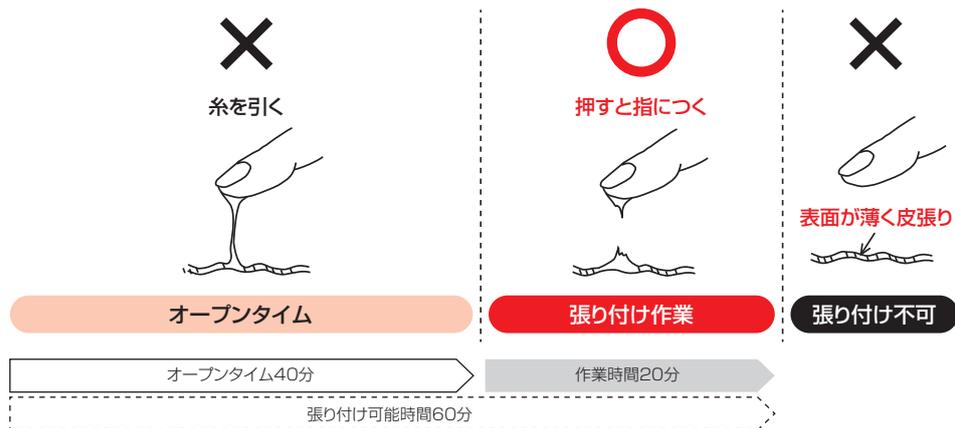
塗布後すぐに
張り付け

<例>
オープンタイム1分
貼り付け可能時間15分
の場合、作業時間は14分となる



タキボンド #701

<例>
オープンタイム40分
貼り付け可能時間60分
の場合、作業時間は20分となる



試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

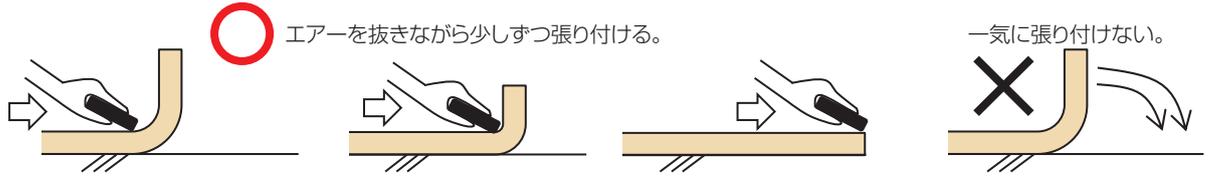
接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス
注意
P.333

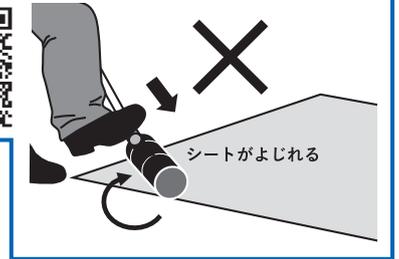
8. 張り付け・エア抜き・圧着

- シートにシワを生じさせないように、中央部から幅方向に**エアを抜きながら**少しずつシートを張り付けてください。



- シート張り付け後、しごき棒でエア抜きを十分に行った後、床ローラーやしごき棒などで圧着してください。

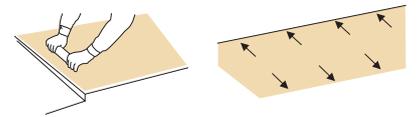
- ⚠床ローラーやしごき棒でシートをひねらないでください。(右図参照)



- 壁際及び継目をハンドローラーやコーナーローラーで十分圧着してください。

- ⚠オープントイムが短い場合、膝等で局部的に圧力をかけると、接着剤が流動してしまい、シート全体に凹凸が生じる恐れがあります。

- ⚠ **プラスケアMJはクッション性が高く力が伝わりにくいので、強く圧着してください。**



9. 養生(1~2日)

- 接着剤が硬化するまで1~2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やキャスター椅子などによる「しごき」を避けてください。養生中は雨水が入らないように注意してください。端部処理の仕上げに大きく影響します。

10. 継目処理

溶接工法

(1) 溝切り



- 夏場の直射日光が当たる条件下(目安となる気温は30℃以上)ではU字溝切りが難しくなりますので、U字溝切りの工具は「ユーキリスーパー」φ2.5mmを使用してください。

※「ユーキリスーパー」は「ユーキリスーパー-X」や「ユーキリスーパー-II」など、「ユーキリスーパー」φ2.5mm※他シリーズとは異なりますのでご注意ください。

※「ユーキリスーパー」は継目部周辺を固定しながらの溝切りが可能です。一般的なU溝カッターでは継目の隙間が開いてU字溝切りが難しくなります。

- ユーキリスーパーの刃は**新刃**を使用して下さい。



- 接着剤が完全に硬化してからU字溝を設けてください。**クッション性がある床材のため、完全硬化前に行くと溝の仕上がりに影響を及ぼす可能性があります。

- シート継目は隙間が空かないように**施工して下さい。シート継目に隙間を空けてしまうと溝切時に継目の隙間が開いてU字溝切りが難しくなります。

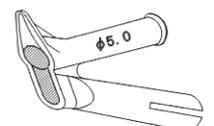
- 溝の深さはシートの下地層(発泡層)が見えない程度**にしてください。溝が深すぎると溶接棒が沈み込む恐れがあります。

- 熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。

- 溶接棒は品番:YJ(φ4.5mm×30m巻)を使用してください。**

品番:YJ(φ4.5mm)の場合の溶接条件の目安

設定	アナログ	6~7
	デジタル	400~500℃
スピード	約1m/分	

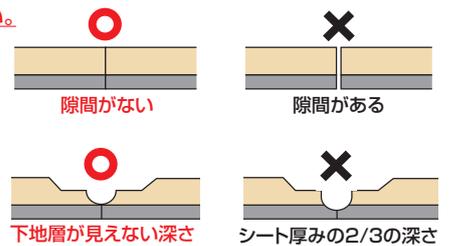


- 溶接機のノズルは5mmを使用してください。**(4mm用ノズルは使用できません)5mm用ノズルはシートが焦げやすいためご注意ください。

- 熱不足や圧着不足になると溶接強度不足が生じます。加熱しすぎるとシートに焦げが生じます。

- タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。

- 溶接棒同士をつなぐ場合には、先に仕上げた溶接棒の溝をユーキリスーパーやカッターナイフでU字、もしくはV字にカットしておいてください。



(2) 溶接

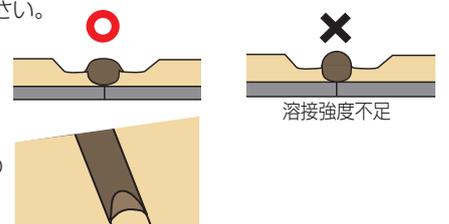


- 溶接機のノズルは5mmを使用してください。**(4mm用ノズルは使用できません)5mm用ノズルはシートが焦げやすいためご注意ください。

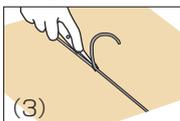
- 熱不足や圧着不足になると溶接強度不足が生じます。加熱しすぎるとシートに焦げが生じます。

- タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。

- 溶接棒同士をつなぐ場合には、先に仕上げた溶接棒の溝をユーキリスーパーやカッターナイフでU字、もしくはV字にカットしておいてください。



(3) 余盛カット

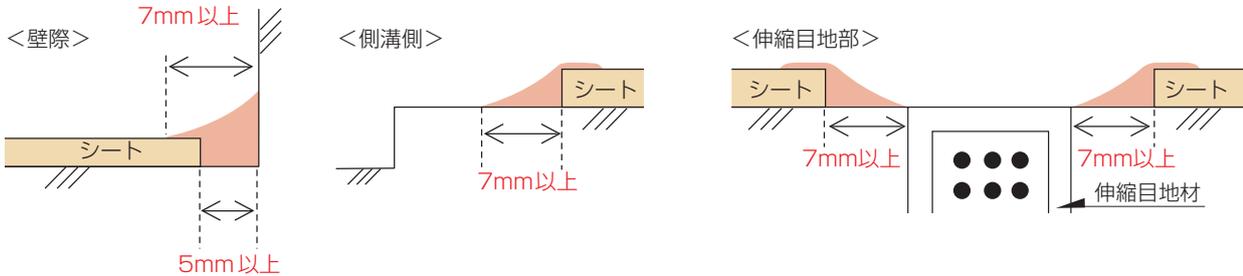


11. 端部処理

- (1)仕上りを美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2)気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。
- (3)充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4)ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。

▲ シールが硬化するまでにシートを踏むと、発泡層内の空気が押し出され、仕上がりに影響を及ぼすことがあります。
マスキングテープの除去等の作業は注意して行ってください。

▲ 端部処理のシール幅は**7mm以上**で仕上げてください。

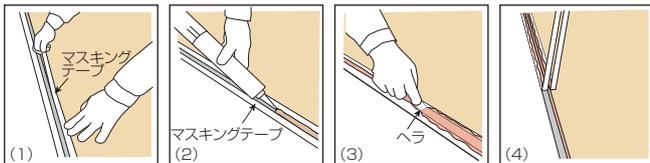


※伸縮目地がある場合は目地手前で端部処理を仕上げ、目地を露出させてください。(伸縮目地上にシールを打設すると、シールにひび割れが発生する恐れがあります。)

※シールの仕上げ面は、硬化後多少の痩せが生じます。

※施工時や養生中に湿度の高い場合や、結露、水滴などにより、シール表面の光沢に差が生じることがありますが、端部処理としての機能には問題はありません。施工日が異なる場合は打ち継ぎ箇所を目立たない所にするなどご注意ください。

※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要です。同梱の取扱説明書を参照してください。

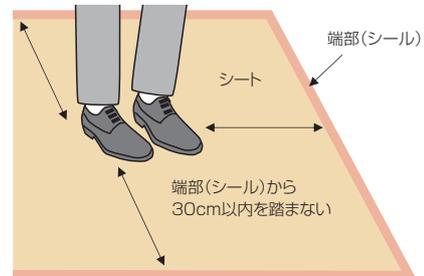


端部処理材の標準使用量

シート	エポシール
プラスケアMJ (厚さ5.0mm)	40m/2kgセット

(通常の1.2～1.5倍程度必要となります)

※端部処理のヘラ仕上げ作業以降、指で軽く触れてもつかない程度に硬化するまで(1日程度)は**シート端部から30cm以内**を踏まないように注意してください。



12. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙等を片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

13. 養生(2～3日)

- シール材が硬化するまで、2～3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、5℃以下(気温・下地)にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため)また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合に換気を行い、引き渡しまでに数日期間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷をつけないように行ってください。

試験データ
P.196

法規関連
P.218

工法・下地
P.229

施工手順
P.247

接着剤・
副資材
P.314

副資材
品番一覧
P.328

メンテナンス・
注意
P.333